

<p>姉妹都市について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・もうすぐ10年目の節目の年を迎えるにあたって、姉妹都市のあり方について検討するべきである ・ロングビュー市が和光市との姉妹都市のあり方をどのように捉えているのか、双方向の行き来がなければ交流とは呼べない ・姉妹都市を一つに限定する必要はなく、市の研究機関や企業等の関係から、和光市との交流を求める都市等を考える時期ではないか ・持続した啓発活動を実施する必要がある <ul style="list-style-type: none"> ●ロングビュー市の特産物を生かした料理教室の開催、公共施設での展示、まつりでの即売会 ●広報わこうで毎月ロングビュー市の近況報告をする ●文化の発信。和光太鼓などを披露し、相手方の和光市に対する知名度を上げる ●ロングビュー市から英語の講師を招聘し、余った時間に、幼児とその母親を対象としたロングビュー市を紹介する英会話教室を開催する ・持続した啓発活動ができない場合は、ロングビュー市との関係を縮小し、近隣のアジア諸国との姉妹都市関係を結ぶことも視野に入れる ・輸出入や経済、人的交流も含めて、和光市も真剣に中国の都市との友好推進を考える時期である
<p>市民海外派遣事業について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「市民海外派遣事業」については、従来型の訪問団という形ではなく、和光市の代表団として意義のあるPR及び交流活動ができる一般市民を募集する方法がよい。 <ul style="list-style-type: none"> ●作文やプレゼンで選考、市が渡航費を全額負担、帰国後1年間は代表団として市の国際交流活動に携わることを条件とする ・過去の「市民海外派遣事業」の成果を検証し、単なる観光旅行にしないために目的及び課題を考える必要がある ・これまでの実績があり、和光市の国際課推進施策として重要な施策であるから、きちんと検討し、事業のあり方を決定する必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> ●これまでの実績の評価(市民、中学生、市の施策として) ●実施する場合には、広く市民から指示されるような方法を検討(派遣事業の目的の明確化、派遣前の研修、派遣の方法、派遣後の周知の方法など) ●「一方通行」という問題点の解決策の検討(一方通行では意義がないと考えてよいのか、ロングビュー市からの市民等の来訪以外の方法はないか)
<p>国際化推進施策について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成18年3月に改定された計画にある施策の具体的な成果は挙がっていない ・市の実情を踏まえ、具体的なニーズを考慮し、着実に施策を進める必要がある <ul style="list-style-type: none"> ●行政当局の関与できる分野における国際化推進施策(市役所・小中学校・その他の機関) ●和光市特有の国際交流の推進(外国籍市民等の特色を活かす方策) ●外国籍市民への言語サービスの推進(日本語学習支援、防災・生活等に関する情報伝達システム) ・在住外国人に対する情報提供は、ホームページや会報の充実により一層の強化を進める ・市全体の国際化については、市内に暮らす外国人をモニターとして、テーマ別に長期的なアンケート及び協議の場を持って、生の声を聞くことが重要である。(市長との懇談会は継続性がない) ・和光市内の学校の取り組みを情報共有のため、ホームページで紹介し、公開できるものについて参観を呼びかけるほか、外国人の登録制度をつくり、ゲストティーチャートして学校を訪問してもらえるようにする ・和光市の生活情報や生活マニュアルを冊子(日本語、英語、中国語、韓国語)にし、無料配布する ・もっと積極性を持ち、他団体への働きかけをすることが必要である ・国等の助成金なども活用できるのではないか。